

平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグジティブ・マネージャー 細野 宗宏
電話番号 03-5572-0233

「ビジョン 2040」および「中期経営計画 2018-2022」の策定について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、このたび、「ビジョン 2040 -エネルギーの未来に
に答える-」および「中期経営計画 2018-2022 -Growth & Value Creation-」を策定いたしました
ので、その概要と併せて以下の通りお知らせいたします。

1. 「ビジョン 2040 -エネルギーの未来に答える-」（以下、本ビジョン）

当社は、2012 年にイクシス LNG プロジェクト（以下、イクシス、※1）の生産開始に向け「INPEX
中長期ビジョン～イクシスそして次の 10 年の成長に向けて～」を発表したのち、これに沿って着
実に取り組みを進めてまいりました。

今後も世界のエネルギー需要に応えることが当社に求められている一方、長期的な事業環境は、
気候変動への対応や低炭素社会への移行という形で大きく変化しています。このような事業環境
の変化に対応するため、当社は、イクシスの生産開始という大きなマイルストーンを達成するに
あたり、今回新たに 2040 年までの長期的な展望を本ビジョンにて示すことといたしました。

エネルギーの開発・生産・供給を、持続可能な形で実現することを通じて、より豊かな社会づ
くり貢献するという理念のもと、当社は、日本をはじめとする世界のエネルギー需要に応じて
いくことで、社会にとってかけがえのないリーディングエネルギーカンパニーとなることを目指
します。この実現に向けて、「石油・天然ガス上流事業の持続的成長により国際大手石油会社トッ
プ 10 へ」、「グローバルガスバリューチェーンの構築によりアジア・オセアニアにおけるガス開
発・供給の主要プレイヤーへ」、「再生可能エネルギーの取り組みの強化によりポートフォリオの
1 割へ」を 2040 年に向けた 3 つの事業目標といたしました。

同時に、CSR 経営の実践、特に気候変動対応を推進し、事業活動の低炭素化等の ESG（環境・
社会・ガバナンス）の取り組み強化を図ることで、いわゆる SDGs（持続可能な開発目標）の実
現に向けて貢献します。

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

2. 「中期経営計画 2018-2022 -Growth & Value Creation-」(以下、本中計)

本中計は、本ビジョンの達成に向けた、2018～2022 年度の具体的な目標や取り組みを定めております。具体的には、探鉱前営業キャッシュフロー(約 2.5 兆円)により得られた資金を、(1)有利子負債の削減、(2)株主還元強化、(3)成長投資(約 1.7 兆円:うち 3 割は新規案件への投資)の優先順位で配分していくことを基本方針とし、以下の経営目標および事業目標の達成を目指してまいります。

<経営目標>

前提条件…ブレント油価 60 ドル/バレル、為替 110 円/米ドル

指標	2022 年度目標	2017 年度実績(参考)
売上	1 兆 3,000 億円程度	9,337 億円
当期純利益※2	1,500 億円程度	403 億円
営業キャッシュフロー※3	4,500 億円程度	2,785 億円
ROE※4	5%以上	1.4%

<事業目標>

① 石油・天然ガス上流事業の持続的成長

イクシス LNG プロジェクトの生産及び出荷開始、並びにランプアップの早期実現と安定生産の維持など、主要プロジェクトにおけるマイルストーンを着実に達成してまいります。定量目標として、ネット生産量については 2022 年度に日量 70 万バレル、リザーブリプレースメントレシオ(RRR、※5)(3年平均)については期間中 100%以上を維持、バレル当たり生産コストについては 5 ドル/バレルへ向けて削減、を目指してまいります。

② グローバルガスバリューチェーンの構築

国内においては、天然ガス年間供給量 25 億 m³の確実な達成を目指します。国外においては、今後、天然ガス需要の増加が見込まれるアジアなどの成長市場において、天然ガスの中下流事業への参画を通じて、自ら天然ガスの需要を創出していくことを目指します。

③ 再生可能エネルギーの取り組みの強化

国内外において地熱発電事業を推進するとともに、国内において風力発電事業へ積極的に参入してまいります。また、再生可能エネルギー関連技術の研究開発にも取り組んでまいります。

<株主還元>

2018 年度において、イクシスの生産及び出荷後、記念配当を実施する方針です。本中計期間中の還元方針としては、1 株当たりの年間配当金が、18 円に上記の記念配当を加えた金額を下回らないよう安定的に配当を実施し、業績の成長に応じて株主還元を強化してまいります。その結果として、配当性向 30%以上を目途といたします。

なお、詳細につきましては、当社ウェブサイトをご参照ください。

「ビジョン 2040 -エネルギーの未来に応える-」

<https://www.inpex.co.jp/company/pdf/vision.pdf>

「中期経営計画 2018-2022 -Growth & Value Creation-」

https://www.inpex.co.jp/company/pdf/business_plan.pdf

※1 イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245 パーセント）としてトータル社（同：30 パーセント）、台湾中油（CPC、同：2.625 パーセント）、東京ガス（同：1.575 パーセント）、大阪ガス（同：1.2 パーセント）、関西電力（同：1.2 パーセント）、JERA（同：0.735 パーセント）及び東邦ガス（同：0.42 パーセント）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間約 890 万トンの LNG 及び年間約 165 万トンの LPG として生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約 10 万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。当社は、1998 年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て 2012 年 1 月に最終投資決定しました。

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

※3 営業活動によるキャッシュフロー

※4 Return on Equity（株主資本利益率）＝親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本（＝純資産－非支配株主持分）の期首と期末の平均値

※5 リザーブリプレースメントレシオ（RRR）＝期中の確認埋蔵量増加分／期中生産量

以上